

「募金は善か？」

2012年8月18日(土)

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・お盆休みの最中にもかかわらず参加者総勢 17 名を迎えて、「募金」をする際に抱く感情と募金をする際の動機自体が何なのかを考え、議論した。

2. 議論；

(0) テーマについて

- ・司会・テーマ選定者から、「募金¹」をする際に「善いこと」をしたという快の感情を感じ、その対価としてお金を支払うという、一種の消費行動と考えられる側面があるため、『募金を善』とは言い切れない」という問題提起をし、募金をする際に感じる何かもやもやした感情やその動機について議論した。
- *1) 議論の前提としては、外国の子供達を飢餓から救うというような場合ではなく、あくまでも日本国内、想定事例としては、東日本大震災の被災者支援のための募金とした。

(1) 募金をする際にどう感じるか？

- ・司会は「募金をする際に”快”を感じる」としたが、「快”を感じない参加者はどんな感情を持つのか？
- a) Oさん；募金をした後に後味が悪く後悔するのであまり募金をしないが、募金した際の感情はお金というシステムに組み入れられることへの何かしらの嫌悪感か？
- b) Hさん；多くの人達がボランティア活動を通じ肉体的労力を捧げている中で、その人達からの無言の視線の圧力を感じ、「何かしなくては」と急き立てられた中で免罪符を得たような感情。(何かしなくてはという義務を負っているマイナス感情からの浮上で、プラスとも言える)
- c) Kさん；被災者等の困っている人達にすぐ金銭等の支援をすることが本当に善いことかという疑問がある(募金の効用を考慮)一方で、同時に”助けてあげたい”と湧き上がる感情との葛藤。

(2) 快を感じるということとそもそもの動機の関係は？

- ・「”快”を感じるから善ではない」という意見が出たが、その”快”の感情を感じる前には何らかの根本的な動機があるのではないか？
- ・その動機自体が善であれば、副作用、副産物的に結果として得られる感情が何であれ、善いと言えるのではないか？

(3) そもそも募金をする根本の動機はどういうものか？

- ・目の前で困っている人を助けたいと思う感情は、かなり本能的な「惻隠の情²」ではないか？
- ・惻隠の情は、目の前で困っている人を見て自然に持つ感情であるのに対し、東日本大震災に見る被災地に対して抱く感情は、個人から見て心の距離感が異なる（近い・遠い）ため、違うのではないか？
- ・個人から見て他者に対する心の距離感が異なる（身近なら近く、疎遠なら遠い）感情は持たず、他者は全てフラットに感じている。
- ・”助けてあげたい”と湧き上がる感情そのものが本能的にあると発言したが、そうではなく、それは社会的な刷り込みも多少含まれる後天的なものではないか。
- ・では、その動機の本質は何ものなのか？の議論へ移ったところで時間切れとなった。
- *2) 惻隠の情：ある対象に同情、あわれみの心を抱くこと。かわいそうに思うこと。孟子が説いた性善説において、誰もが持つとされる4つの心：仁・義・礼・智の徳（四徳）のうち、仁の端に当たる。

3. まとめ；

- ・テーマ提起者としては、募金をしたいと思う動機自体と、募金をした際に感じる”快”の感情とを別に考えるべきかもしれないという視点は発見であった。また募金をしたいと感じる動機それ自体が何ものなのか、どこから来るのかについて、機会を見つけて議論したい。
- ・社会システムや募金の効用に対する下記論点も一部に出たが、そこは別の機会に譲りたい。
 - a) 人々の善意に依存した募金システムよりも、税金で被災者を支援する財政出動の方が公平ではないか。
 - b) 募金システムの運営者自体にどれだけの信頼性があるのかが疑問である。
 - c) 募金を集めるときの公約された目的・使途と集金後の実際の使途とに乖離がある。

以上